

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	医学概論
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	多様化・複雑化している社会福祉ニーズに対応できるよう、人の成長・発達や心身機能と身体構造の概要について学ぶ。国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要、健康の概念について理解し、ライフステージにおける課題や公衆衛生の観点など多面的に理解する。疾病と障害の概要及びリハビリテーションの概念と範囲について理解する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解する。 2. 健康と疾病の捉え方について理解する。 3. 人の身体構造と心身機能について理解する。 4. 疾病と障害の成り立ち及び回復過程について理解する。 5. 公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を理解する。 ※特に社会福祉士として求められる知識として、疾病や障害及びリハビリテーションに関する理解が深められている。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 「1 医学概論」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（看護師の資格を有し、病院・福祉施設等の現場にて15年以上）を有する者
授業計画	1 ライフステージにおける心身の変化と健康課題 ① (ライフステージにおける心身の特徴、心身の加齢・老化) 2 ライフステージにおける心身の変化と健康課題 ② (ライフステージ別の健康課題) 3 健康および疾病の捉え方 (健康、疾病の概念、国際生活機能分類ICFの考え方) 4 身体構造と心身機能 ① (人体部位の名称) 5 身体構造と心身機能 ② (器官系と臓器の役割) 6 疾病と障害の成り立ちと回復過程 (疾病の発生原因、成立機序) 7 確認テスト1・採点・解説・やり直し 8 リハビリテーションの概要と範囲 (リハビリテーションの定義、目的、対象、方法) 9 疾病と障害の予防・治療・予後・リハビリテーション① (感染症、神経疾患、認知症、高次脳機能障害、脳血管疾患、心疾患) 10 疾病と障害の予防・治療・予後・リハビリテーション② (内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患、消化器・肝胆膵疾患) 11 疾病と障害の予防・治療・予後・リハビリテーション③ (骨・関節、血液・免疫・アレルギー疾患、眼科疾患・視覚障害、耳鼻咽喉疾患・聴覚障害、平衡機能障害、口腔疾患、婦人科・産科) 12 疾病と障害の予防・治療・予後・リハビリテーション④ (精神疾患・障害、発達障害、小児科疾患、肢体不自由、知的障害 高齢者に多い疾患、生活習慣病、内部障害、悪性腫瘍と緩和ケア) 13 公衆衛生 (公衆衛生の定義、健康増進と保健医療対策) 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し 15 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	心理学と心理的支援
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	人の心の基本的な仕組みや機能、発達と心理との関係、日常生活と心の健康に関して学ぶ。また、心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本、ソーシャルワークへの活用について理解する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解する。 2. 人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する。 3. 日常生活と心の健康との関係について理解する。 4. 心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解する。 ※特に社会福祉士として求められる基本的な心理学的知識が身につけられている。 ソーシャルワークや心理的支援についての理解が深められている。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 「2 心理学と心理的支援」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（認定心理士・専門健康心理士・精神保健福祉士・社会福祉士等の資格を有し、病院・福祉施設等の現場にて10年以上）を有する者。
授業計画	1 心理学の視点（心理学の歴史と対象、心を探求する方法の発展） 2 人の心の基本的な仕組みと機能 ①（心の生物学的基盤、感情・動機づけ・欲求） 3 人の心の基本的な仕組みと機能 ②（感覚・知覚、学習・行動、） 4 人の心の基本的な仕組みと機能 ③（認知） 5 人の心の基本的な仕組みと機能 ④（知能・パーソナリティ、社会のなかでの心理） 6 人の心の発達過程（生涯発達、心の発達の基盤） 7 確認テスト1・採点・解説・やり直し 8 日常生活と心の健康 ①（心の不適応） 9 日常生活と心の健康 ②（健康生成論） 10 心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本 ① （心理アセスメント、心理的支援の基本的技法） 11 心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本 ② （心理療法におけるアセスメントと介入技法の概要、心理の専門職） 12 ソーシャルワークと心理学 ①（子ども・家庭福祉、高齢者福祉、障害児・者福祉） 13 ソーシャルワークと心理学 ②（精神保健福祉、支援者支援福祉、制度利用と心理的ケア） 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し 15 まとめ
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	社会学と社会システム
実務家教員授業	
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	人々をとりまく現代社会が社会理論によってどのように捉えることができるのか、また、家族や生活に関して社会学の視点から学習する。社会的孤立や社会病理に関して学び、具体的な社会問題に関して理解を深める。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 現代社会の特性を理解する。 2. 生活の多様性について理解する。 3. 人と社会の関係について理解する。 4. 社会問題とその背景について理解する。 ※特に家族や世帯の概念、生活についての理解が深められている。社会問題の捉え方と具体的な社会問題に関して理解されており、社会福祉士として求められる社会に関する基本的な視点が身につけられている。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 「3 社会学と社会システム」
特記	
授業計画	1 社会学の視点（社会学の意義と対象、社会学の歴史） 2 社会構造と変動 ①（社会システム、組織と集団） 3 社会構造と変動 ②（人口、グローバリゼーション） 4 社会構造と変動 ③（社会変動） 5 社会構造と変動 ④（地域） 6 社会構造と変動 ⑤（環境） 7 確認テスト1・採点・解説・やり直し 8 市民社会と公共性 ①（社会的格差） 9 市民社会と公共性 ②（社会政策と社会問題） 10 市民社会と公共性 ③（差別と偏見、災害と復興） 11 生活と人生 ①（家族とジェンダー、健康） 12 生活と人生 ②（労働、世代） 13 自己と他者（自己と他者、社会化、） 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し 15 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	社会福祉の原理と政策
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	60時間
授業回数	30回
授業概要	社会福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解し、現代社会における福祉制度の意義や理論を理解する。 福祉制度と福祉政策との関係を理解し、福祉政策におけるニーズと資源、課題について学ぶ。また、福祉政策の構成要素として、政府、市場、家族、個人の役割について理解するとともに、福祉政策と教育政策、住宅政策、労働政策との関係について理解する。ソーシャルワーク活動と福祉政策との関係について理解する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。 2. 社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。 3. 社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解する。 4. 福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。 5. 福祉政策の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解する。 6. 福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。 7. 福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。 ※福祉政策と関連政策について理解されており、ソーシャルワーク活動を行うにあたって求められる福祉制度と福祉政策に関する基礎的知識が習得できている。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 「4 社会福祉の原理と政策」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	1 社会福祉の原理（社会福祉の原理とは何か） 2 社会福祉の歴史 ①（社会福祉の歴史を学ぶ視点） 3 社会福祉の歴史 ②（欧米の社会福祉の歴史的展開） 4 社会福祉の歴史 ③（日本の社会福祉の歴史的展開） 5 社会福祉の思想・哲学・理論 ①（社会福祉の思想・哲学） 6 社会福祉の思想・哲学・理論 ②（社会福祉の理論） 7 社会福祉の思想・哲学・理論 ③（社会福祉の論点） 8 社会福祉の思想・哲学・理論 ④（社会福祉の対象とニーズ） 9 確認テスト1・採点・解説・やり直し 10 社会問題と社会構造 ①（現代における社会問題） 11 社会問題と社会構造 ②（社会問題の構造的背景） 12 福祉政策の基本的な視点 ①（福祉政策とは何か） 13 福祉政策の基本的な視点 ②（福祉政策において重要な概念・理念） 14 福祉政策におけるニーズと資源 ①（ニーズ） 15 福祉政策におけるニーズと資源 ②（資源） 16 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	社会福祉の原理と政策
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	60時間
授業回数	30回
授業概要	社会福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解し、現代社会における福祉制度の意義や理論を理解する。 福祉制度と福祉政策との関係を理解し、福祉政策におけるニーズと資源、課題について学ぶ。また、福祉政策の構成要素として、政府、市場、家族、個人の役割について理解するとともに、福祉政策と教育政策、住宅政策、労働政策との関係について理解する。ソーシャルワーク活動と福祉政策との関係について理解する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。 2. 社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。 3. 社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解する。 4. 福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。 5. 福祉政策の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解する。 6. 福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。 7. 福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。 ※福祉政策と関連政策について理解されており、ソーシャルワーク活動を行うにあたって求められる福祉制度と福祉政策に関する基礎的知識が習得できている。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 「4 社会福祉の原理と政策」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	16 まとめ 17 福祉政策の構成要素と過程 ① （福祉政策の構成要素） 18 福祉政策の構成要素と過程 ② （福祉政策の過程と評価） 19 福祉政策の動向と課題 ① （福祉政策と包括的支援の現状） 20 福祉政策の動向と課題 ② （福祉政策と包括的支援の課題） 21 福祉政策と関連施策 ① （保健医療政策、教育政策） 22 福祉政策と関連施策 ② （住宅政策） 23 福祉政策と関連施策 ③ （労働政策、災害政策） 24 確認テスト3・採点・解説・やり直し 25 福祉サービスの供給と利用の過程（福祉供給部門、福祉供給過程、福祉利用過程） 26 福祉政策の国際比較 ① （国際比較の視点と方法） 27 福祉政策の国際比較 ② （福祉政策の動向：欧米、東アジア） 28 福祉政策の国際比較 ③（福祉政策の新しい潮流と国際比較の新しい課題） 29 確認テスト4・採点・解説・やり直し 30 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	社会福祉調査の基礎
実務家教員授業	
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	社会調査の意義と目的、統計法の概要について学ぶ。社会調査における倫理と個人情報保護の観点から留意すべき点について理解する。量的調査の種類と方法、質問紙の作成方法と留意点、質問紙の配布と回収、調査の集計と分析に関して学ぶ。質的調査の方法として、観察法と面接法の概要及び記録とデータ整理の方法について学ぶ。また社会調査の実施にあたってICTの活用方法に関して学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 社会福祉調査の意義と目的について理解する。 2. 社会福祉調査と社会福祉の歴史的関係について理解する。 3. 社会福祉調査における倫理や個人情報保護について理解する。 4. 量的調査の方法及び調査の結果について適切に理解する。 5. 質的調査の方法及び調査の結果について適切に理解する。 6. ソーシャルワークにおける評価の意義と方法について理解する。 ※社会福祉における社会調査の意義と目的が理解されている。社会調査における倫理や個人情報保護に関して理解が深められている。統計法の概要、量的調査及び質的調査の概要と方法、留意点について理解されており、社会調査の実施にあたってITがどのように活用されているのか、その方法についても理解されている。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 「5 社会福祉調査の基礎」
特記	
授業計画	1 社会福祉調査の意義と目的 2 社会福祉調査における倫理と個人情報保護 3 社会福祉調査のデザイン ①（調査における考え方・論理、社会福祉調査のプロセス） 4 社会福祉調査のデザイン ②（社会福祉調査の目的と対象、データ収集・分析） 5 量的調査の方法 ①（量的調査の概要、量的調査の種類と方法、質問紙の作成方法と留意点） 6 量的調査の方法 ②（質問紙の配布と回収、量的調査の集計と分析） 7 確認テスト1・採点・解説・やり直し 8 質的調査の方法 ①（質的調査の概要と方法、質的調査のサンプリング） 9 質的調査の方法 ②（質的調査のデータ収集法、記録の方法と留意点） 10 質的調査の方法 ③（質的調査のデータの分析方法） 11 ソーシャルワークにおける評価 ①（ソーシャルワークにおける評価の意義） 12 ソーシャルワークにおける評価 ②（ソーシャルワークにおける評価対象） 13 ソーシャルワークにおける評価 ③（ソーシャルワークにおける評価方法） 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し 15 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	ソーシャルワークの基盤と専門職
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ、役割と意義について理解し、ソーシャルワークの概念、範囲、理念、倫理について学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。 2. ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。 3. ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。 ※ソーシャルワークの概念、理念、範囲について学ぶとともに、ソーシャルワークの倫理に関する理解が深められている。社会福祉士及び精神保健福祉士の役割と意義について理解されている。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 「11 ソーシャルワークの基盤と専門職 [共通・社会専門]」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	1 社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ ①（ソーシャルワークの専門職である社会福祉士・精神保健福祉士、社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法） 2 社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ ②（社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性） 事例：課題発見、資源活用 3 社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ ③（社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性） 事例：多機関・多職種連携、実態把握と介入 4 社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ ④（社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性） 事例：終結と支援の波及効果、当事者との協働と普及啓発 5 社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ ⑤（社会福祉士・精神保健福祉士に求められるコンピテンシー） 6 ソーシャルワークの概念 ①（ソーシャルワークの定義） 7 ソーシャルワークの概念 ②（ソーシャルワークの構成要素） 8 ソーシャルワークの基盤となる考え方（ソーシャルワークの原理、ソーシャルワークの理念） 9 確認テスト1・採点・解説・やり直し 10 ソーシャルワークの形成過程 ①（ソーシャルワークの源流と基礎確立期、発展期） 11 ソーシャルワークの形成過程 ②（ソーシャルワークの展開期と統合化、日本におけるソーシャルワークの形成過程） 12 ソーシャルワークの倫理 ①（専門職倫理の概念、倫理綱領） 13 ソーシャルワークの倫理 ②（倫理的ジレンマ） 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し 15 まとめ
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	社会福祉士の職域と役割について理解し、ソーシャルワークに係る専門職倫理について理解する。総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。 2. ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。 3. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と関連性について理解する。 4. 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。 ※ソーシャルワークの概念、範囲について学び、ミクロ・メゾ・マクロの各領域における展開について理解が深められている。社会福祉士の専門職倫理について理解している。総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容についての理解が深められている。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 「11 ソーシャルワークの基盤と専門職 [共通・社会専門]」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	1 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 ①（ソーシャルワーク専門職の概念と範囲） 2 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 ②（社会福祉士の職域と役割） 3 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 ③（多様な組織・機関・団体における専門職） 4 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 ④（諸外国の動向） 5 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク ①（ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象） 6 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク ②（ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開） 7 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク ③（ミクロ・メゾ・マクロレベルの関連性とそれに基づく支援の実践） 8 確認テスト1・採点・解説・やり直し 9 まとめ 10 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 ①（総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点） 11 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 ②（ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容） 12 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 ③（ソーシャルサポートネットワーク） 13 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 ④（多職種連携およびチームアプローチの意義と内容） 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し 15 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	ソーシャルワークの理論と方法
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	60時間
授業回数	30回
授業概要	ソーシャルワークにおける人と環境との交互作用に関する理論及び様々な実践モデル・アプローチについて学ぶとともに、ソーシャルワークの対象を理解し、ソーシャルワークの過程における知識と技術を学ぶ。コミュニティワークやソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクション等についても学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 2. ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。 3. ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。 4. コミュニティワークの概念とその展開について理解する。 5. ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。 ※ソーシャルワークにおける理論及び実践モデルに関して学び、ソーシャルワークのそれぞれの過程における知識と技術に関して理解されている。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座「12 ソーシャルワークの理論と方法〔共通科目〕」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	1 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク ①（ソーシャルワーカーが学ぶ理論） 2 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク ②（システム理論） 3 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク ③（生態学理論） 4 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク ④（バイオ・サイコ・ソーシャルモデル） 5 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク ⑤（ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク） 6 確認テスト1・採点・解説・やり直し 7 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク ⑥（ソーシャルワークの目標と展開過程） 8 ソーシャルワークの過程① ケースの発見とエンゲージメント（ケースの発見、エンゲージメント（インテーク）） 9 ソーシャルワークの過程② アセスメント（アセスメントの意義と目的） 10 ソーシャルワークの過程③ アセスメント（アセスメントの方法、留意点） 11 ソーシャルワークの過程④ プランニング（プランニングの意義と目的） 12 ソーシャルワークの過程⑤ プランニング（プランニングのプロセスと方法、留意点） 13 ソーシャルワークの過程⑥ 支援の実施とモニタリング（支援の実施、モニタリング） 14 ソーシャルワークの過程⑦ 支援の実施とモニタリング（効果測定） 15 確認テスト2・採点・解説・やり直し
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	ソーシャルワークの理論と方法
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	60時間
授業回数	30回
授業概要	ソーシャルワークにおける人と環境との交互作用に関する理論及び様々な実践モデル・アプローチについて学ぶとともに、ソーシャルワークの対象を理解し、ソーシャルワークの過程における知識と技術を学ぶ。コミュニティワークやソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクション等についても学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 2. ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。 3. ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。 4. コミュニティワークの概念とその展開について理解する。 5. ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。 ※ソーシャルワークにおける理論及び実践モデルに関して学び、ソーシャルワークのそれぞれの過程における知識と技術に関して理解されている。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座「12 ソーシャルワークの理論と方法〔共通科目〕」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 ソーシャルワークの過程⑧ 支援の終結と結果評価、アフターケア（支援の終結） ソーシャルワークの過程⑨ 支援の終結と結果評価、アフターケア（結果評価、アフターケア） ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ①（アプローチの考え方、さまざまな実践モデルとアプローチ） ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ②（ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ） ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ③（ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ） 確認テスト3・採点・解説・やり直し ソーシャルワークの面接（面接の意義と目的、面接の方法と実際） ソーシャルワークの記録（記録の意義と目的、記録の内容、記録のフォーマット） ケアマネジメント(ケースマネジメント)（ケアマネジメント(ケースマネジメント)の原則、意義と方法） グループを活用した支援（グループワークの意義と目的、展開過程、グループワークとセルフヘルプグループ） コミュニティワーク（コミュニティワークの意義と目的、コミュニティワークの展開、理論的系譜とモデル） ソーシャルアドミニストレーション（概念とその意義、組織介入・組織改善の実践モデル、組織運営における財源の確保） ソーシャルアクション（ソーシャルアクションの概念とその意義、コミュニティ・オーガナイズング） スーパービジョンとコンサルテーション（スーパービジョンの意義、目的、方法、コンサルテーションの意義、目的、方法） 確認テスト4・採点・解説・やり直し
成績評価方法（試験実施方法）	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	ソーシャルワークの理論と方法（専門）
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	60時間
授業回数	30回
授業概要	ソーシャルワーカーとして、ソーシャルワーク過程の知識と支援方法を学ぶとともに、福祉の専門職としての問題解決能力を身につける。ソーシャルワーク場面の事例を通して、援助の意義や援助関係の形成方法、社会資源の活用、ソーシャルワークの技法について学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。 2. 支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。 3. 社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。 4. 個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。 ※ソーシャルワークの理論と方法に関する用語を説明することができる。ソーシャルワーカーとして自立・自律的に専門的な知識・方法や態度を身につけ、身近な環境で実践できる。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座 「6 ソーシャルワークの理論と方法〔社会専門〕」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	1 総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際 ①（総合的かつ包括的な支援の考え方） 2 総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際 ②（家族支援の実際） 3 総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際 ③（家族支援の実際） 4 総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際 ④（地域支援の実際） 5 総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際 ⑤（地域支援の実際） 6 確認テスト1・採点・解説・やり直し 7 総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際 ⑥（非常時や災害時支援の実際） 8 総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際 ⑦（非常時や災害時支援の実際） 9 ソーシャルワークにおける援助関係の形成 ①（援助関係形成の意義と概念） 10 ソーシャルワークにおける援助関係の形成 ②（援助関係の形成方法と留意点） 11 ネットワークの形成 ①（ネットワーキング） 12 ネットワークの形成 ②（ネットワーキング） 13 ネットワークの形成 ③（コーディネート） 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し 15 ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発 ①（社会資源の活用・調整）
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	ソーシャルワークの理論と方法（専門）
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	60時間
授業回数	30回
授業概要	ソーシャルワーカーとして、ソーシャルワーク過程の知識と支援方法を学ぶとともに、福祉の専門職としての問題解決能力を身につける。ソーシャルワーク場面の事例を通して、援助の意義や援助関係の形成方法、社会資源の活用、ソーシャルワークの技法について学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。 2. 支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。 3. 社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。 4. 個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。 ※ソーシャルワークの理論と方法に関する用語を説明することができる。ソーシャルワーカーとして自立・自律的に専門的な知識・方法や態度を身につけ、身近な環境で実践できる。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座 「6 ソーシャルワークの理論と方法〔社会専門〕」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	16 ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発 ②（ソーシャルワーク実践と社会資源） 17 ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発 ③（社会資源開発のさまざまな方法） 18 カンファレンス ①（会議の種類と方法） 19 カンファレンス ②（マイクロ・メゾ・マクロの会議） 20 確認テスト3・採点・解説・やり直し 21 事例分析、事例検討、事例研究 ①（事例分析） 22 事例分析、事例検討、事例研究 ②（事例検討） 23 事例分析、事例検討、事例研究 ③（事例研究） 24 ソーシャルワークに関連する技法 ①（ネゴシエーション） 25 ソーシャルワークに関連する技法 ②（コンフリクト・レゾリューション） 26 ソーシャルワークに関連する技法 ③（ファシリテーション） 27 ソーシャルワークに関連する技法 ④（プレゼンテーション） 28 ソーシャルワークに関連する技法 ⑤（ソーシャル・マーケティング） 29 確認テスト4・採点・解説・やり直し 30 まとめ
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	地域福祉と包括的支援体制
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	60時間
授業回数	30回
授業概要	地域福祉の基本的考え方、主体と対象、地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。地域福祉における多職種、多機関との連携を含むネットワークキングについて理解し、地域福祉の推進方法について学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。 2. 地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。 3. 地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。 4. 地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。 5. 包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。 6. 地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。 ※授業の目的とねらいが理解されている。ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発、地域における福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、福祉サービスの評価方法と実際について理解されている。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 「6 地域福祉と包括的支援体制」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	1 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題 ①（地域社会の概念と理論、地域社会の変化） 2 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題 ②（多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ、地域福祉と社会的孤立） 3 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制 ①（地域包括ケアシステム） 4 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制 ②（生活困窮者自立支援の考え方） 5 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制 ③（包括的支援体制とは、地域共生社会の構築とは） 6 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制 ④（地域共生社会の実現に向けた各種施策） 7 確認テスト1・採点・解説・やり直し 8 地域福祉ガバナンスと多機関協働 ①（地域福祉ガバナンス、多機関協働を促す仕組み） 9 地域福祉ガバナンスと多機関協働 ②（多職種連携、福祉以外の分野と機関協働の実際） 10 地域福祉の基本的な考え方 ①（地域福祉の概念と理論） 11 地域福祉の基本的な考え方 ②（地域福祉の歴史） 12 地域福祉の基本的な考え方 ③（地域福祉の動向、地域福祉の推進主体） 13 地域福祉の基本的な考え方 ④（地域福祉の主体と福祉教育） 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し 15 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	地域福祉と包括的支援体制
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	60時間
授業回数	30回
授業概要	地域福祉の基本的考え方、主体と対象、地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。地域福祉における多職種、多機関との連携を含むネットワーキングについて理解し、地域福祉の推進方法について学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。 2. 地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。 3. 地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。 4. 地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。 5. 包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。 6. 地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。 ※授業の目的とねらいが理解されている。ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、地域における福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、福祉サービスの評価方法と実際について理解されている。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 「6 地域福祉と包括的支援体制」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	16 地域を基盤としたソーシャルワークの展開 ①（地域を基盤としたソーシャルワークの方法） 17 地域を基盤としたソーシャルワークの展開 ②（住民の主体形成に向けたアプローチ、具体的な展開） 18 災害時における総合的かつ包括的な支援体制 ①（非常時や災害時における法制度） 19 災害時における総合的かつ包括的な支援体制 ②（非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援） 20 福祉計画の意義と種類、策定と運用 ①（福祉計画の定義、目的、機能と歴史的展開、市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容） 21 福祉計画の意義と種類、策定と運用 ②（福祉計画の策定過程と方法、ニーズの把握の方法・技術） 22 福祉計画の意義と種類、策定と運用 ③（福祉計画における評価） 23 確認テスト3・採点・解説・やり直し 24 福祉行財政システム ①（国の役割） 25 福祉行財政システム ②（都道府県の役割、市町村の役割） 26 福祉行財政システム ③（国と地方の関係） 27 福祉行財政システム ④（福祉行財政の組織および専門職の役割） 28 福祉行財政システム ⑤（福祉における財源） 29 確認テスト4・採点・解説・やり直し 30 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	福祉サービスの組織と経営
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	福祉サービスに係る組織や団体の概要について理解する。 福祉サービスの組織と経営の基礎理論及び会計管理等の実際について理解する。 福祉サービスの管理運営について、サービス管理や苦情対応、人事・労務管理などに関する理解を深める。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. ソーシャルワークにおいて必要となる、福祉サービスを提供する組織や団体の概要について理解する。 2. 社会福祉士に求められる福祉サービスの組織と沿革、経営の視点と方法を理解する。 3. 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論、労働者の権利等について理解する。 4. 福祉サービスに求められる福祉人材マネジメントについて理解する。 ※授業の目的・ねらいが理解されている。福祉サービスの組織と経営に関する基礎理論を学ぶとともに、実際についての理解が深められている。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座 「1 福祉サービスの組織と経営」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	1 福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割 ①（福祉サービスを提供する組織） 2 福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割 ②（福祉サービスの沿革と概況、組織間連携と促進） 3 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論 ①（組織運営に関する基礎理論） 4 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論 ②（集団力学に関する基礎理論） 5 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論 ③（リーダーシップに関する基礎理論） 6 福祉サービス提供組織の経営と実際 ①（経営体制） 7 確認テスト1・採点・解説・やり直し 8 福祉サービス提供組織の経営と実際 ②（福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンス） 9 福祉サービス提供組織の経営と実際 ③（適切な福祉サービスの経営管理） 10 福祉サービス提供組織の経営と実際 ④（情報管理、会計管理と財務管理） 11 福祉人材のマネジメント ①（福祉人材のマネジメント） 12 福祉人材のマネジメント ②（福祉人材の育成） 13 福祉人材のマネジメント ③（働きやすい労働環境の整備） 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し 15 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	社会保障
実務家教員授業	
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	60時間
授業回数	30回
授業概要	少子高齢化や労働環境の変化などによる現代社会の社会保障制度の課題について学ぶ。社会保障の概念、理念、対象について理解する。年金保険制度、医療保険制度、介護保険制度、労災保険制度、雇用保険制度、社会福祉制度、生活保護制度、家族手当制度に関して、制度の目的、対象、給付内容、財源構成などに関して学び、特に年金保険制度と医療保険制度に関しては具体的内容も学ぶ。先進諸国における社会保障制度の概要を概観する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解する。 2. 現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解する。 3. 社会保障制度の財政について理解する。 4. 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。 5. 社会保障制度の体系と概要について理解する。 6. 諸外国における社会保障制度の概要について理解する。 ※授業の目的・ねらいが理解されている。相談援助職として、基本的に知っておくべき社会保障の概念や理念を理解するとともに、現行の社会保障制度に関する具体的な知識を身につける。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座「7 社会保障」
特記	
授業計画	1 現代社会と社会保障 ①（人口動態の変化） 2 現代社会と社会保障 ②（経済環境の変化） 3 現代社会と社会保障 ③（労働環境の変化） 4 社会保障の概念や対象及びその理念 ①（社会保障の概念と範囲） 5 社会保障の概念や対象及びその理念 ②（社会保障の役割と意義） 6 確認テスト1・採点・解説・やり直し 7 社会保障の概念や対象及びその理念 ③（社会保障の理念） 8 社会保障の概念や対象及びその理念 ④（社会保障の対象） 9 社会保障の概念や対象及びその理念 ⑤（社会保障制度の展開） 10 社会保障の財政 ①（社会保障の財政） 11 社会保障の財政 ②（社会保障給付費・内訳・動向） 12 確認テスト2・採点・解説・やり直し 13 社会保障の財政 ③（国民負担率） 14 社会保障の財政 ④（社会保障と経済） 15 社会保険・社会扶助・民間保険の関係 ①（保険と扶助の考え方）
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容																														
授業科目	社会保障																														
実務家教員授業																															
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース																														
履修年次	1年次																														
開講学期	前期																														
科目区分	必須																														
授業方法	講義																														
授業時間	60時間																														
授業回数	30回																														
授業概要	少子高齢化や労働環境の変化などによる現代社会の社会保障制度の課題について学ぶ。社会保障の概念、理念、対象について理解する。年金保険制度、医療保険制度、介護保険制度、労災保険制度、雇用保険制度、社会福祉制度、生活保護制度、家族手当制度に関して、制度の目的、対象、給付内容、財源構成などに関して学び、特に年金保険制度と医療保険制度に関しては具体的内容も学ぶ。先進諸国における社会保障制度の概要を概観する。																														
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る																														
達成目標	1. 社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解する。 2. 現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解する。 3. 社会保障制度の財政について理解する。 4. 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。 5. 社会保障制度の体系と概要について理解する。 6. 諸外国における社会保障制度の概要について理解する。 ※授業の目的・ねらいが理解されている。相談援助職として、基本的に知っておくべき社会保障の概念や理念を理解するとともに、現行の社会保障制度に関する具体的な知識を身につける。																														
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座「7 社会保障」																														
特記																															
授業計画	<table border="1"> <tr><td>16</td><td>社会保険・社会扶助・民間保険の関係 ②（社会保険と社会扶助の考え方）</td></tr> <tr><td>17</td><td>社会保険・社会扶助・民間保険の関係 ③（社会保険と民間保険の現状）</td></tr> <tr><td>18</td><td>確認テスト3・採点・解説・やり直し</td></tr> <tr><td>19</td><td>社会保障制度の体系 ①（医療保険制度の概要）</td></tr> <tr><td>20</td><td>社会保障制度の体系 ②（介護保険制度の概要）</td></tr> <tr><td>21</td><td>社会保障制度の体系 ③（年金制度の概要）</td></tr> <tr><td>22</td><td>社会保障制度の体系 ④（労災保険制度と雇用保険制度の概要）</td></tr> <tr><td>23</td><td>確認テスト4・採点・解説・やり直し</td></tr> <tr><td>24</td><td>社会保障制度の体系 ⑤（生活保護制度の概要）</td></tr> <tr><td>25</td><td>社会保障制度の体系 ⑥（社会手当制度の概要）</td></tr> <tr><td>26</td><td>社会保障制度の体系 ⑦（社会福祉制度の概要）</td></tr> <tr><td>27</td><td>諸外国における社会保障制度 ①（諸外国の社会保障）</td></tr> <tr><td>28</td><td>諸外国における社会保障制度 ②（社会保障の国際比較、社会保障の国際化）</td></tr> <tr><td>29</td><td>確認テスト5・採点・解説・やり直し</td></tr> <tr><td>30</td><td>まとめ</td></tr> </table>	16	社会保険・社会扶助・民間保険の関係 ②（社会保険と社会扶助の考え方）	17	社会保険・社会扶助・民間保険の関係 ③（社会保険と民間保険の現状）	18	確認テスト3・採点・解説・やり直し	19	社会保障制度の体系 ①（医療保険制度の概要）	20	社会保障制度の体系 ②（介護保険制度の概要）	21	社会保障制度の体系 ③（年金制度の概要）	22	社会保障制度の体系 ④（労災保険制度と雇用保険制度の概要）	23	確認テスト4・採点・解説・やり直し	24	社会保障制度の体系 ⑤（生活保護制度の概要）	25	社会保障制度の体系 ⑥（社会手当制度の概要）	26	社会保障制度の体系 ⑦（社会福祉制度の概要）	27	諸外国における社会保障制度 ①（諸外国の社会保障）	28	諸外国における社会保障制度 ②（社会保障の国際比較、社会保障の国際化）	29	確認テスト5・採点・解説・やり直し	30	まとめ
16	社会保険・社会扶助・民間保険の関係 ②（社会保険と社会扶助の考え方）																														
17	社会保険・社会扶助・民間保険の関係 ③（社会保険と民間保険の現状）																														
18	確認テスト3・採点・解説・やり直し																														
19	社会保障制度の体系 ①（医療保険制度の概要）																														
20	社会保障制度の体系 ②（介護保険制度の概要）																														
21	社会保障制度の体系 ③（年金制度の概要）																														
22	社会保障制度の体系 ④（労災保険制度と雇用保険制度の概要）																														
23	確認テスト4・採点・解説・やり直し																														
24	社会保障制度の体系 ⑤（生活保護制度の概要）																														
25	社会保障制度の体系 ⑥（社会手当制度の概要）																														
26	社会保障制度の体系 ⑦（社会福祉制度の概要）																														
27	諸外国における社会保障制度 ①（諸外国の社会保障）																														
28	諸外国における社会保障制度 ②（社会保障の国際比較、社会保障の国際化）																														
29	確認テスト5・採点・解説・やり直し																														
30	まとめ																														
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。																														
備考																															

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	高齢者福祉
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	高齢者の定義と特性を学び、高齢者の生活実態と取り巻く社会環境、高齢者福祉の歴史、法制度への理解を踏まえて、高齢者と家族等との関係構築と支援の実際など、高齢者福祉を実践的に習得する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 2. 高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する。 3. 高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 4. 高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士として適切な支援のあり方を理解する。 ※高齢者福祉の発展過程と現状及び現行の関連法規について理解されている。ソーシャルワーカーとして求められる高齢期における生活課題が理解され、支援を行うために必要な専門職の役割や連携について理解が深められている。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座 「2 高齢者福祉」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	1 高齢者と少子高齢社会 ①（高齢者の定義と特性） 2 高齢者と少子高齢社会 ②（少子高齢社会の到来） 3 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境（高齢者の生活実態、高齢者を取り巻く社会環境） 4 高齢者福祉の歴史と理念 ①（高齢者観の変遷、高齢者福祉の発展過程、高齢者福祉の理念） 5 介護保険制度 ①（介護保険制度の概要） 6 介護保険制度 ②（地域支援事業、介護保険サービスの体系） 7 確認テスト1・採点・解説・やり直し 8 高齢者に対する関連諸制度 ①（高齢者保健福祉の法体系、老人福祉法） 9 高齢者に対する関連諸制度 ②（高齢者医療確保法、高齢者虐待防止法） 10 高齢者に対する関連諸制度 ③（バリアフリー法、高齢者住まい法） 11 高齢者に対する関連諸制度 ④（高年齢者雇用安定法、育児・介護休業法、市町村独自の高齢者支援） 12 高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割（関係機関の役割、関連する専門職等の役割） 13 高齢者と家族等に対する支援の実際 ①（高齢者領域におけるソーシャルワーカーの役割） 14 高齢者と家族等に対する支援の実際 ②（高齢者と家族などに対する支援の実際） 15 確認テスト2・採点・解説・やり直し
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	障害者福祉
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	障害者とその家族の生活とこれらを取り巻く社会環境および生活課題を理解し、ソーシャルワーカーに必要な知識と視点を学ぶ。障害者福祉を理解するための考え方・発展過程、障害に関わる重要な思想・理念、法制度、支援のしくみについて基礎的な理解をはかる。それにより、障害者の生活を支える専門家として必要な知識の学習と課題への対応策を考える力を身につけることをめざす。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 2. 障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解する。 3. 障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 4. 障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。 ※障害の概念と特性、障害者福祉の発展過程、障害者の生活実態、社会環境や法制度を理解し説明できる。これら障害者の生活実態、生活課題を踏まえて、障害者と家族等の生活を支えるためにソーシャルワーカーに必要な考え方を理解し、実践に生かすことができる。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 「8 障害者福祉」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	1 障害概念と特性（障害者の定義と特性、国際生活機能分類(ICF)と障害の社会モデル） 2 障害者福祉の理念（障害観の変遷、障害者福祉の理念） 3 障害者福祉の歴史 ①（障害者処遇の変遷、障害者福祉制度と発展過程） 4 障害者福祉の歴史 ②（障害者福祉制度と当事者運動、障害者権利条約と障害者基本法） 5 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題 ①（障害者の生活実態、障害者と家族） 6 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題 ②（障害者を取り巻く社会環境と課題） 7 確認テスト1・採点・解説・やり直し 8 障害者に対する法制度 ①（法制度の全体像、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法、児童福祉法） 9 障害者に対する法制度 ②（発達障害者支援法、障害者総合支援法・児童福祉法、障害者虐待防止法） 10 障害者に対する法制度 ③（障害者差別解消法、バリアフリー法、障害者雇用促進法、障害者優先調達推進法） 11 障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割 ①（障害者と家族等の支援における関係機関の役割） 12 障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割 ②（関連する専門職の役割） 13 障害者と家族等に対する支援の実際 （障害者領域におけるソーシャルワーカーの役割、障害者と家族等に対する支援の実際） 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し 15 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	児童・家庭福祉
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要、児童・家庭福祉制度の発展過程を理解する。そのうえで、児童の権利、児童・家庭福祉に関する法体系を理解する。また、児童・家庭福祉制度における組織や団体、専門職の役割を理解し、それぞれの連携方法、実態について理解する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解する。 2. 児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について理解する。 3. 児童や家庭福祉に係る法制度について理解する。 4. 児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解する。 5. 児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解する。 ※特に児童の権利について理解され、児童・家庭福祉制度及び支援の理解が深められている。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座 「3 児童・家庭福祉」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	1 子ども家庭福祉とは何か（児童・家庭の定義と権利、子どもの生命と発達、子どもと家庭・地域、子ども家庭福祉とは） 2 子ども家庭福祉の歴史（慈善・恩恵から権利保障へ、子どもの権利擁護の変遷、子ども家庭福祉と現代社会） 3 子ども家庭を取り巻く現代社会（子ども家庭を取り巻く社会環境、現代社会における課題と子育て・子育てへの影響） 4 子ども家庭福祉の支援の基盤 ①（子ども家庭福祉の法体系、実施体制、関係機関・施設と利用方式） 5 子ども家庭福祉の支援の基盤 ②（子ども家庭福祉の財源と費用負担、人材と専門職、計画的推進） 6 子どもの福祉課題と支援 ①（子ども・子育て支援、母子保健、保育、要保護児童等と在宅支援、児童虐待にかかわる支援） 7 確認テスト1・採点・解説・やり直し 8 子どもの福祉課題と支援 ②（社会的養護、ひとり親家庭への支援、DVと女性支援、スクールソーシャルワーク） 9 子どもの福祉課題と支援 ③（少年非行、若者支援、障害のある子どもへの支援、ソーシャルアクション） 10 子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践 ①（子ども家庭福祉の支援の端緒と調査、アセスメント、支援の展開過程と連携） 11 子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践 ②（子ども・子育て支援にかかわる実践、母子保健や医療との協働による実践） 12 子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践 ③（保育・児童虐待・社会的養護・ひとり親家庭への支援にかかわる実践） 13 子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践 ④（女性福祉・教育と協働・若者の自立支援にかかわる実践障、害児にかかわる実践、当事者参画とアドボカシーにかかわる実） 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し 15 まとめ
成績評価方法（試験実施方法）	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容																														
授業科目	貧困に対する支援																														
実務家教員授業	○																														
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース																														
履修年次	1年次																														
開講学期	前期																														
科目区分	必須																														
授業方法	講義																														
授業時間	30時間																														
授業回数	15回																														
授業概要	低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要を理解し、そのうえで生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。また、自立支援プログラムの意義と実際について理解し、低所得者に対する対策について学ぶ。																														
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る																														
達成目標	1. 貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。 2. 貧困の歴史と貧困観の変遷について理解する。 3. 貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解する。 4. 貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。 ※授業の目的・ねらいが理解されている。特に生活保護制度の概要と実際及び低所得者支援の理解が深められている。																														
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座 「4 貧困に対する支援」																														
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。																														
授業計画	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>公的扶助の概念（公的扶助の概念と範囲、公的扶助の意義と役割）</td></tr> <tr><td>2</td><td>貧困の概念と貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境 ①（貧困の概念、貧困状態にある人の生活実態）</td></tr> <tr><td>3</td><td>貧困の概念と貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境 ②（貧困状態にある人を取り巻く社会環境）</td></tr> <tr><td>4</td><td>貧困の歴史（貧困状態にある人に対する福祉の理念、貧困観の変遷、貧困に対する制度の発展過程）</td></tr> <tr><td>5</td><td>生活保護制度（生活保護制度、保護の動向）</td></tr> <tr><td>6</td><td>低所得者に対する法制度 ①（生活困窮者自立支援制度、生活福祉資金貸付制度）</td></tr> <tr><td>7</td><td>低所得者に対する法制度 ②（低所得者対策、ホームレス対策）</td></tr> <tr><td>8</td><td>確認テスト1・採点・解説・やり直し</td></tr> <tr><td>9</td><td>貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 ①（貧困に対する支援における公私の役割関係）</td></tr> <tr><td>10</td><td>貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 ②（国、都道府県、市町村、福祉事務所、自立相談支援機関の役割）</td></tr> <tr><td>11</td><td>貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 ③（その他の貧困に対する支援における関係機関の役割）</td></tr> <tr><td>12</td><td>貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 ④（関連する専門職等の役割）</td></tr> <tr><td>13</td><td>貧困に対する支援の実際（社会福祉士の役割、支援に必要とされる視点と基本姿勢、貧困に対する支援の実際）</td></tr> <tr><td>14</td><td>確認テスト2・採点・解説・やり直し</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td></tr> </table>	1	公的扶助の概念（公的扶助の概念と範囲、公的扶助の意義と役割）	2	貧困の概念と貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境 ①（貧困の概念、貧困状態にある人の生活実態）	3	貧困の概念と貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境 ②（貧困状態にある人を取り巻く社会環境）	4	貧困の歴史（貧困状態にある人に対する福祉の理念、貧困観の変遷、貧困に対する制度の発展過程）	5	生活保護制度（生活保護制度、保護の動向）	6	低所得者に対する法制度 ①（生活困窮者自立支援制度、生活福祉資金貸付制度）	7	低所得者に対する法制度 ②（低所得者対策、ホームレス対策）	8	確認テスト1・採点・解説・やり直し	9	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 ①（貧困に対する支援における公私の役割関係）	10	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 ②（国、都道府県、市町村、福祉事務所、自立相談支援機関の役割）	11	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 ③（その他の貧困に対する支援における関係機関の役割）	12	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 ④（関連する専門職等の役割）	13	貧困に対する支援の実際（社会福祉士の役割、支援に必要とされる視点と基本姿勢、貧困に対する支援の実際）	14	確認テスト2・採点・解説・やり直し	15	まとめ
1	公的扶助の概念（公的扶助の概念と範囲、公的扶助の意義と役割）																														
2	貧困の概念と貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境 ①（貧困の概念、貧困状態にある人の生活実態）																														
3	貧困の概念と貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境 ②（貧困状態にある人を取り巻く社会環境）																														
4	貧困の歴史（貧困状態にある人に対する福祉の理念、貧困観の変遷、貧困に対する制度の発展過程）																														
5	生活保護制度（生活保護制度、保護の動向）																														
6	低所得者に対する法制度 ①（生活困窮者自立支援制度、生活福祉資金貸付制度）																														
7	低所得者に対する法制度 ②（低所得者対策、ホームレス対策）																														
8	確認テスト1・採点・解説・やり直し																														
9	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 ①（貧困に対する支援における公私の役割関係）																														
10	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 ②（国、都道府県、市町村、福祉事務所、自立相談支援機関の役割）																														
11	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 ③（その他の貧困に対する支援における関係機関の役割）																														
12	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 ④（関連する専門職等の役割）																														
13	貧困に対する支援の実際（社会福祉士の役割、支援に必要とされる視点と基本姿勢、貧困に対する支援の実際）																														
14	確認テスト2・採点・解説・やり直し																														
15	まとめ																														
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。																														
備考																															

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保健医療と福祉
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	ソーシャルワーク実践において必要な保健医療の動向や関連政策、制度、保健医療サービス分野の概要を学ぶ。 保健医療サービスにおける専門職の役割、社会福祉士の役割と連携や協働について学習し、専門職としての知識、支援方法、態度を習得する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を理解する。 2. 保健医療に係る政策、制度、サービスについて理解する。 3. 保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解する。 4. 保健医療の課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。 ※保健医療サービス及び専門職の役割が理解されており、ソーシャルワーク活動において必要となる多職種協働についての理解が深められている。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座 「5 保健医療と福祉」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	1 保健医療の課題をもつ人の理解（病者の理解、家族の理解、患者の権利） 2 医療倫理（医療倫理と倫理的課題、患者の意思決定をめぐる課題） 3 保健医療の動向 ①（疾病構造の変化、入院医療から在宅医療/病院完結型医療から地域完結型医療へ） 4 保健医療の動向 ②（保健医療における福祉的課題） 5 保健医療領域に必要な政策・制度およびサービスに関する知識 ①（保健医療政策・制度） 6 保健医療領域に必要な政策・制度およびサービスに関する知識 ②（保健医療サービスの提供体制） 7 保健医療領域に必要な政策・制度およびサービスに関する知識 ③（医療費の保障、その他の政策・制度） 8 確認テスト1・採点・解説・やり直し 9 保健医療領域における専門職の役割と連携 ①（保健医療領域における専門職と院内連携） 10 保健医療領域における専門職の役割と連携 ②（地域の関係機関との連携の実際） 11 保健医療領域における専門職の役割と連携 ③（医療機関におけるソーシャルワーカーが所属する部門の構築） 12 保健医療領域における支援の実際 ①（保健医療領域におけるソーシャルワーカーの役割） 13 保健医療領域における支援の実際 ②（保健医療領域における支援の実際） 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し 15 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	権利擁護を支える法制度	
実務家教員授業	○	
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	必須	
授業方法	講義	
授業時間	30時間	
授業回数	15回	
授業概要	ソーシャルワーク活動と日本国憲法、民法、行政法等との関わりについて理解する。権利擁護に関わる組織、団体の役割と権利擁護活動の実際について学ぶ。成年後見制度及び日常生活自立支援事業の概要について理解する。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	1. 法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を理解する。 2. 権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。 3. 権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。 4. 権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から理解する。 5. ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。 ※授業の目的・ねらいが理解されている。権利擁護の概要と実際について理解されている。特に成年後見制度及び日常生活自立支援事業についての理解が深められている。	
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座「9 権利擁護を支える法制度」	
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。	
授業計画	1	ソーシャルワークと法のかかわり（権利擁護活動で直面しうる法的諸問題、憲法、民法、行政法） 法の基礎（法と規範、法の体系、種類、機能、法律の基礎知識、法の解釈、裁判制度・判例を学ぶ意義） 権利擁護の意義と支える仕組み ①（権利擁護の意義、福祉サービスの適切な利用、苦情解決の仕組み） 権利擁護の意義と支える仕組み ②（虐待・暴力防止関係法の概要、障害者差別解消法の概要） 権利擁護活動と意思決定支援 ①（意思決定支援とは、意思決定支援ガイドライン、インフォームド・コンセント） 権利擁護活動と意思決定支援 ②（秘密・プライバシー・個人情報、権利擁護活動と社会の安全） 権利擁護にかかわる組織、団体、専門職 確認テスト1・採点・解説・やり直し 成年後見制度 ①（成年後見制度の概要） 成年後見制度 ②（後見・保佐・補助の概要、任意後見の概要） 成年後見制度 ③（成年後見制度の最近の動向） 成年後見制度 ④（成年後見制度利用支援事業） 成年後見制度 ⑤（日常生活自立支援事業） 確認テスト2・採点・解説・やり直し まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。	
備考		

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	刑事司法と福祉
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	刑事司法を学ぶ意義を理解するとともに、刑事司法、少年司法の制度について学ぶ。施設内処遇や社会内処遇、医療観察制度や犯罪被害者等支援の概要やソーシャルワーカーの役割を学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを理解する。 2. 刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について理解する。 3. 刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について理解する。 ※刑事司法、少年司法に関する制度の概要を理解している。施設内処遇や社会内処遇、医療観察制度における支援内容や、ソーシャルワーカーの役割を理解している。関係機関・団体との連携の在り方について理解が深められている。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座「10 刑事司法と福祉」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（介護福祉士・社会福祉士等の資格を有し、福祉施設等の現場にて20年以上）を有する者。
授業計画	1 「刑事司法と福祉」総論、社会と犯罪 2 犯罪原因論と対策（犯罪原因論の展開、犯罪原因論に基づく犯罪の対応とその限界） 3 刑罰とは何か（刑罰制度の歴史、刑罰の本質と機能、刑罰の種類と適用の状況） 4 刑事司法（刑事手続きの概要、刑事手続きと重要な原則、犯罪の成立要件と責任能力判断） 5 少年司法（少年法は何のためにあるのか、少年保護手続きの流れ、少年司法制度上の処分） 6 施設内処遇 7 確認テスト1・採点・解説・やり直し 8 社会内処遇（更生保護の理念と概、要更生保護の実際） 9 多様なニーズを有する犯罪行為者①（精神障害者を対象とした医療観察制度） 10 多様なニーズを有する犯罪行為者②（高齢者・障害者による犯罪・非行と福祉） 11 多様なニーズを有する犯罪行為者③（アディクションを抱える人と刑事司法） 12 犯罪被害者等支援（犯罪被害者等支援に関する制度の概要、犯罪被害者等支援にあたっての考え方、犯罪被害者等支援の実際） 13 コミュニティと刑事司法（刑事司法への市民参加、犯罪から学ぶ社会のあり方、対話による問題解決、犯罪と私） 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し 15 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	ソーシャルワーク演習
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	演習
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	ソーシャルワークのために不可欠である自己覚知、基本的なコミュニケーション技術、基本的な面接技術、ソーシャルワークの展開過程、ソーシャルワークの記録、グループダイナミクス、プレゼンテーション技術などを学ぶ。授業は個別学習と集団学習を通して具体的な援助場面を想定したロールプレイングなどの実技を中心とする演習形態にて行う。
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る
達成目標	1. ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。 2. ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。 3. ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。 4. ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。 ※ソーシャルワークの意義や人と環境との関係が理解されている。ソーシャルワークの展開過程や関連技法を理解したうえで、基本的なコミュニケーション技術や面接技術を習得している。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 「13 ソーシャルワーク演習〔共通科目〕」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	1 ソーシャルワーク演習の意義と目的 ①（ソーシャルワーク演習とは） 2 ソーシャルワーク演習の意義と目的 ②（ソーシャルワーク演習を通して学ぶこと） 3 人と環境の交互作用（人と環境の交互作用、自己理解と他者理解） 4 ソーシャルワークの対象、機能と役割 ①（ソーシャルワークの対象、ソーシャルワークの価値基準および倫理、理念） 5 ソーシャルワークの対象、機能と役割 ②（ソーシャルワークの機能とソーシャルワーカーの役割） 6 コミュニケーション技術と面接技術 ①（コミュニケーション技術） 7 コミュニケーション技術と面接技術 ②（面接技術） 8 ソーシャルワークの展開過程と関連技法 ①（ケースの発見とエンゲージメント（インテーク）） 9 ソーシャルワークの展開過程と関連技法 ②（アセスメント） 10 ソーシャルワークの展開過程と関連技法 ③（プランニング） 11 ソーシャルワークの展開過程と関連技法 ④（支援の実施とモニタリング、記録、支援過程の把握と管理） 12 ソーシャルワークの展開過程と関連技法 ⑤（支援の終結と結果評価、アフターケア） 13 グループダイナミクスの活用（グループダイナミクスの構成） 14 プレゼンテーション技術 15 レポート1・まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験及びレポートにより評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容																														
授業科目	ソーシャルワーク演習(専門)																														
実務家教員授業	○																														
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース																														
履修年次	1年次																														
開講学期	通年																														
科目区分	必須																														
授業方法	演習																														
授業時間	120時間																														
授業回数	60回																														
授業概要	ソーシャルワークの実践に必要な知識や技術、ソーシャルワークの展開過程、社会福祉士に求められる価値規範や倫理について理解する。虐待、引きこもり、貧困、災害時等の複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について、事例検討を通じて理解を深める。																														
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る																														
達成目標	1. ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化、理解化し体系立てていくことができる能力を習得する。 2. 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。 3. 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 4. 地域特性や課題を把握し解決するための地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。 5. ミクロ、メゾ、マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。 6. 実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。 7. 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。 ※ソーシャルワークに関する知識と技術を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。ソーシャルワーク実習後には個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できている。																														
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座 「7 ソーシャルワーク演習 [社会専門]」																														
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。																														
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td><td>ソーシャルワーク演習の意義と目的 ①（社会福祉士養成における演習の意義と目的）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>ソーシャルワーク演習の意義と目的 ②（ソーシャルワーク演習の目標）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>ソーシャルワーク演習の意義と目的 ③（ソーシャルワーク演習の内容）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ①（演習のねらいと事例の基本情報）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ②（ケースの発見とエンゲージメント（インテーク）①）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ③（ケースの発見とエンゲージメント（インテーク）②）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ④（アセスメント①）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ⑤（アセスメント②）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ⑥（プランニング①）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ⑦（プランニング②）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ⑧（支援の実施とモニタリング①）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ⑨（支援の実施とモニタリング②）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ⑩（支援の終結と結果評価アフターケア）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ⑪（ソーシャルワークの展開過程とコンピテンシー）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>レポート1・まとめ</td></tr> </table>	1	ソーシャルワーク演習の意義と目的 ①（社会福祉士養成における演習の意義と目的）	2	ソーシャルワーク演習の意義と目的 ②（ソーシャルワーク演習の目標）	3	ソーシャルワーク演習の意義と目的 ③（ソーシャルワーク演習の内容）	4	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ①（演習のねらいと事例の基本情報）	5	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ②（ケースの発見とエンゲージメント（インテーク）①）	6	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ③（ケースの発見とエンゲージメント（インテーク）②）	7	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ④（アセスメント①）	8	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ⑤（アセスメント②）	9	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ⑥（プランニング①）	10	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ⑦（プランニング②）	11	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ⑧（支援の実施とモニタリング①）	12	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ⑨（支援の実施とモニタリング②）	13	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ⑩（支援の終結と結果評価アフターケア）	14	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ⑪（ソーシャルワークの展開過程とコンピテンシー）	15	レポート1・まとめ
1	ソーシャルワーク演習の意義と目的 ①（社会福祉士養成における演習の意義と目的）																														
2	ソーシャルワーク演習の意義と目的 ②（ソーシャルワーク演習の目標）																														
3	ソーシャルワーク演習の意義と目的 ③（ソーシャルワーク演習の内容）																														
4	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ①（演習のねらいと事例の基本情報）																														
5	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ②（ケースの発見とエンゲージメント（インテーク）①）																														
6	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ③（ケースの発見とエンゲージメント（インテーク）②）																														
7	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ④（アセスメント①）																														
8	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ⑤（アセスメント②）																														
9	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ⑥（プランニング①）																														
10	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ⑦（プランニング②）																														
11	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ⑧（支援の実施とモニタリング①）																														
12	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ⑨（支援の実施とモニタリング②）																														
13	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ⑩（支援の終結と結果評価アフターケア）																														
14	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション ⑪（ソーシャルワークの展開過程とコンピテンシー）																														
15	レポート1・まとめ																														
成績評価方法（試験実施方法）	出席と試験及びレポートにより評価する。																														
備考																															

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	ソーシャルワーク演習(専門)
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必須
授業方法	演習
授業時間	120時間
授業回数	60回
授業概要	ソーシャルワークの実践に必要な知識や技術、ソーシャルワークの展開過程、社会福祉士に求められる価値規範や倫理について理解する。虐待、引きこもり、貧困、災害時等の複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について、事例検討を通じて理解を深める。
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る
達成目標	1. ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化、理解化し体系立てていくことができる能力を習得する。 2. 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。 3. 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 4. 地域特性や課題を把握し解決するための地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。 5. ミクロ、メゾ、マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。 6. 実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。 7. 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。 ※ソーシャルワークに関する知識と技術を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。ソーシャルワーク実習後には個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できている。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座 「7 ソーシャルワーク演習 [社会専門]」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	16 地域における社会的孤立への気づきと生み出す支援のあり方を考える ① (ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、事後評価) 17 地域における社会的孤立への気づきと生み出す支援のあり方を考える ② (ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、事後評価) 18 服役を繰り返す福祉ニーズのあるクライアントへの多機関・多職種による支援を考える ① (ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、事後評価) 19 服役を繰り返す福祉ニーズのあるクライアントへの多機関・多職種による支援を考える ② (ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、事後評価) 20 メンタルヘルス課題と社会福祉士の役割・機能を考える ① (ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、事後評価) 21 メンタルヘルス課題と社会福祉士の役割・機能を考える ② (ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、事後評価) 22 子どもや親のSOSに気づき、家族全体のレジリエンスを高めることを考える ① (ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、事後評価) 23 子どもや親のSOSに気づき、家族全体のレジリエンスを高めることを考える ② (ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、事後評価) 24 クライアントが一番気になっている問題から支援を考える ① (ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、事後評価) 25 クライアントが一番気になっている問題から支援を考える ② (ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、事後評価) 26 災害支援からソーシャルワーカーの基本的姿勢と役割を考える ① (ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、事後評価) 27 災害支援からソーシャルワーカーの基本的姿勢と役割を考える ② (ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、事後評価) 28 地域のニーズに対応した新たなサービス・事業開発を考える ① (ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、事後評価) 29 地域のニーズに対応した新たなサービス・事業開発を考える ② (ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、事後評価) 30 レポート2・まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験及びレポートにより評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	ソーシャルワーク演習(専門)
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必須
授業方法	演習
授業時間	120時間
授業回数	60回
授業概要	ソーシャルワークの実践に必要な知識や技術、ソーシャルワークの展開過程、社会福祉士に求められる価値規範や倫理について理解する。虐待、引きこもり、貧困、災害時等の複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について、事例検討を通じて理解を深める。
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る
達成目標	1. ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化、理解化し体系立てていくことができる能力を習得する。 2. 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。 3. 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 4. 地域特性や課題を把握し解決するための地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。 5. ミクロ、メゾ、マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。 6. 実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。 7. 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。 ※ソーシャルワークに関する知識と技術を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。ソーシャルワーク実習後には個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できている。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座 「7 ソーシャルワーク演習〔社会専門〕」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	31 支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的な支援① (ロールプレイング)虐待(児童) 32 支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的な支援② (ロールプレイング)虐待(障害者) 33 支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的な支援③ (ロールプレイング)虐待(高齢者) 34 支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的な支援④ (ロールプレイング)ひきこもり 35 支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的な支援⑤ (ロールプレイング)ひきこもり 36 支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的な支援⑥ (ロールプレイング)貧困 37 支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的な支援⑦ (ロールプレイング)貧困 38 支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的な支援⑧ (ロールプレイング)認知症 39 支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的な支援⑨ (ロールプレイング)認知症 40 支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的な支援⑩ (ロールプレイング)終末期ケア 41 支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的な支援⑪ (ロールプレイング)終末期ケア 42 支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的な支援⑫ (ロールプレイング)災害時 43 支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的な支援⑬ (ロールプレイング)災害時 44 支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的な支援⑭ (ロールプレイング)危機的状態への支援(権利擁護含む) 45 レポート3・まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験及びレポートにより評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容																														
授業科目	ソーシャルワーク演習(専門)																														
実務家教員授業	○																														
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース																														
履修年次	1年次																														
開講学期	通年																														
科目区分	必須																														
授業方法	演習																														
授業時間	120時間																														
授業回数	60回																														
授業概要	ソーシャルワークの実践に必要な知識や技術、ソーシャルワークの展開過程、社会福祉士に求められる価値規範や倫理について理解する。虐待、引きこもり、貧困、災害時等の複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について、事例検討を通じて理解を深める。																														
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る																														
達成目標	1. ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化、理解化し体系立てていくことができる能力を習得する。 2. 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。 3. 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 4. 地域特性や課題を把握し解決するための地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。 5. ミクロ、メゾ、マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。 6. 実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。 7. 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。 ※ソーシャルワークに関する知識と技術を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。ソーシャルワーク実習後には個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できている。																														
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座 「7 ソーシャルワーク演習 [社会専門]」																														
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。																														
授業計画	<table border="1"> <tr><td>46</td><td>地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導 ①（ロールプレイング）</td></tr> <tr><td>47</td><td>地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導 ②（ロールプレイング）</td></tr> <tr><td>48</td><td>地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導 ③（ロールプレイング）</td></tr> <tr><td>49</td><td>地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導 ④（ロールプレイング）</td></tr> <tr><td>50</td><td>地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導 ⑤（ロールプレイング）</td></tr> <tr><td>51</td><td>ソーシャルワーク実習後 事例研究 ①（スーパービジョン）</td></tr> <tr><td>52</td><td>ソーシャルワーク実習後 事例研究 ②（スーパービジョン）</td></tr> <tr><td>53</td><td>ソーシャルワーク実習後 事例研究 ③（スーパービジョン）</td></tr> <tr><td>54</td><td>ソーシャルワーク実習後 事例研究 ④（スーパービジョン）</td></tr> <tr><td>55</td><td>ソーシャルワーク実習後 事例検討 ①</td></tr> <tr><td>56</td><td>ソーシャルワーク実習後 事例検討 ②</td></tr> <tr><td>57</td><td>ソーシャルワーク実習後 事例検討 ③</td></tr> <tr><td>58</td><td>ソーシャルワーク実習後 事例検討 ④</td></tr> <tr><td>59</td><td>レポート4</td></tr> <tr><td>60</td><td>まとめ</td></tr> </table>	46	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導 ①（ロールプレイング）	47	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導 ②（ロールプレイング）	48	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導 ③（ロールプレイング）	49	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導 ④（ロールプレイング）	50	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導 ⑤（ロールプレイング）	51	ソーシャルワーク実習後 事例研究 ①（スーパービジョン）	52	ソーシャルワーク実習後 事例研究 ②（スーパービジョン）	53	ソーシャルワーク実習後 事例研究 ③（スーパービジョン）	54	ソーシャルワーク実習後 事例研究 ④（スーパービジョン）	55	ソーシャルワーク実習後 事例検討 ①	56	ソーシャルワーク実習後 事例検討 ②	57	ソーシャルワーク実習後 事例検討 ③	58	ソーシャルワーク実習後 事例検討 ④	59	レポート4	60	まとめ
46	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導 ①（ロールプレイング）																														
47	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導 ②（ロールプレイング）																														
48	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導 ③（ロールプレイング）																														
49	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導 ④（ロールプレイング）																														
50	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導 ⑤（ロールプレイング）																														
51	ソーシャルワーク実習後 事例研究 ①（スーパービジョン）																														
52	ソーシャルワーク実習後 事例研究 ②（スーパービジョン）																														
53	ソーシャルワーク実習後 事例研究 ③（スーパービジョン）																														
54	ソーシャルワーク実習後 事例研究 ④（スーパービジョン）																														
55	ソーシャルワーク実習後 事例検討 ①																														
56	ソーシャルワーク実習後 事例検討 ②																														
57	ソーシャルワーク実習後 事例検討 ③																														
58	ソーシャルワーク実習後 事例検討 ④																														
59	レポート4																														
60	まとめ																														
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験及びレポートにより評価する。																														
備考																															

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	ソーシャルワーク実習指導
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必須
授業方法	演習
授業時間	90時間
授業回数	45回
授業概要	ソーシャルワーク実習に向けて、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的・実践的に理解し、実践的な支援方法を体得する。また、社会福祉士に求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。効果的な実習ができるように、各実習のオリエンテーション、事前準備指導を行う。実習記録の整理・実習のまとめ・ケーススタディの発表を通し、各自の課題を明確にするとともに、学びの共有をはかる。
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る
達成目標	1. ソーシャルワーク実習の意義について理解する。 2. 社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。 3. ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。 4. 実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。 ※ソーシャルワークに係る知識と支援方法について説明することができる。自己覚知や自己に求められる課題把握を通し、福祉の専門職としての姿勢について考え実践できる。実習における経験から、福祉専門職における問題解決能力について明らかにすることができる。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座 「8 ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習〔社会専門〕」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	1 ソーシャルワーク実習の目的と構造 ①（実習及び実習指導の意義と目的） 2 ソーシャルワーク実習の目的と構造 ②（実習におけるスーパービジョン） 3 ソーシャルワーク実習の目的と構造 ③（実習における教育評価） 4 ソーシャルワーク実習の目的と構造 ④（実習の構造、実習におけるリスクマネジメント） 5 実習先決定に向けた準備 ①（情報収集の方法） 6 実習先決定に向けた準備 ②（実習記録の書き方） 7 実習先決定に向けた準備 ③（実習の分野と施設・機関・利用者の理解） 8 実習先決定に向けた準備 ④（実習の分野と施設・機関・利用者の理解） 9 現場体験学習及び見学実習 ① 10 現場体験学習及び見学実習 ② 11 現場体験学習及び見学実習 ③ 12 現場体験学習及び見学実習 ④ 13 実習先で関わる他の職種の専門性や業務の理解 14 ソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 15 個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験及びレポートにより評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	ソーシャルワーク実習指導
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必須
授業方法	演習
授業時間	90時間
授業回数	45回
授業概要	ソーシャルワーク実習に向けて、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的・実践的に理解し、実践的な支援方法を体得する。また、社会福祉士に求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。効果的な実習ができるように、各実習のオリエンテーション、事前準備指導を行う。実習記録の整理・実習のまとめ・ケーススタディの発表を通し、各自の課題を明確にするとともに、学びの共有をはかる。
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る
達成目標	1. ソーシャルワーク実習の意義について理解する。 2. 社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。 3. ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。 4. 実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。 ※ソーシャルワークに係る知識と支援方法について説明することができる。自己覚知や自己に求められる課題把握を通し、福祉の専門職としての姿勢について考え実践できる。実習における経験から、福祉専門職における問題解決能力について明らかにすることができる。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座 「8 ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習〔社会専門〕」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	16 実習先決定後の準備 ①（実習先決定後の学習の内容と方法） 17 実習先決定後の準備 ②（実習計画の作成） 18 実習先決定後の準備 ③（実習計画の作成） 19 実習先決定後の準備 ④（事前訪問/事前打ち合わせ） 20 実習中の学習 ①（実習スーパービジョン、） 21 実習中の学習 ②（実習中の評価） 22 実習中の学習 ③（実習中に直面する悩み） 23 実習中の学習 ④（実習中に起こり得る問題） 24 実習後の学習（実習後に行う評価、事後学習の目的と方法、実習成果の報告） 25 実習の実際 ①（利用者やその関係者への権利擁護活動とその評価） 26 実習の実際 ②（利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体、住民ボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成） 27 実習の実際 ③（利用者やその関係者との援助関係の形成） 28 実習の実際 ④（利用者や地域の状況の理解と、生活上の課題の把握、支援計画の作成と実施及び評価） 29 実習の実際 ⑤（多職種連携およびチームアプローチ） 30 実習の実際 ⑥（実習施設・機関が地域社会のなかで果たす役割の理解および具体的な地域社会への働きかけ）
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と試験及びレポートにより評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	ソーシャルワーク実習指導
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必須
授業方法	演習
授業時間	90時間
授業回数	45回
授業概要	ソーシャルワーク実習に向けて、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的・実践的に理解し、実践的な支援方法を体得する。また、社会福祉士に求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。効果的な実習ができるように、各実習のオリエンテーション、事前準備指導を行う。実習記録の整理・実習のまとめ・ケーススタディの発表を通し、各自の課題を明確にするとともに、学びの共有をはかる。
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る
達成目標	1. ソーシャルワーク実習の意義について理解する。 2. 社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。 3. ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。 4. 実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。 ※ソーシャルワークに係る知識と支援方法について説明することができる。自己覚知や自己に求められる課題把握を通し、福祉の専門職としての姿勢について考え実践できる。実習における経験から、福祉専門職における問題解決能力について明らかにすることができる。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座 「8 ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習〔社会専門〕」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	31 実習の実際 ⑦（地域における分野横断的・業種横断的な関係形成） 32 実習の実際 ⑧（地域における社会資源の活用・調整・開発） 33 実習の実際 ⑨（実習施設・機関等の経営やサービスの管理運営の実際） 34 実習の実際 ⑩（社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任） 35 ソーシャルワーク実践に求められる技術①（アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、） 36 ソーシャルワーク実践に求められる技術②（ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション） 37 ソーシャルワーク実践に求められる技術③（ソーシャルマーケティング、ソーシャルアクション） 38 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 39 実習巡回指導 40 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 41 実習巡回指導 42 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成 ① 43 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成 ② 44 実習の評価全体総括会 ① 45 実習の評価全体総括会 ②
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験及びレポートにより評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	ソーシャルワーク実習
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	必須
授業方法	実習
授業時間	240時間（180＋60）
授業回数	31日
授業概要	ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術を理解し、実践的な技術等を体得する。関連分野の専門職との連携のあり方や内容を理解する。
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ
達成目標	1. ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。 2. 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。 3. 生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。 4. 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。 5. 総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。
教科書	中央法規出版 最新 社会福祉士養成講座 「8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習 [社会専門]」 学校法人大原学園 「実習指導マニュアル」「実習記録ノート」
特記	実務家教員のうち実習担当者は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。また、実習指導者は福祉施設の現役福祉職員。
授業計画	実習生は次に掲げる事項について実習指導者による指導を受けるものとする。 ・ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成 ・ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成 ・ 利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価 ・ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価 ・ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価 ・ 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解 ・ 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ ・ 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解 ・ 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む） ・ 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解 ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解 ・ （アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネート、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション） 巡回指導（実習指導担当教員は巡回指導等を通して実習生及び実習指導者との連絡・調整を密に行い、実習生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行う）
成績評価方法（試験実施方法）	実習指導者と実習担当者が実習評価表に基づき評価したものと、実習記録や出席状況などを加味し、総合的に評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	社会福祉総合演習	
実務家教員授業		
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	20時間	
授業回数	10回	
授業概要	社会福祉士の職業に必要な専門的な知識を総体的に整理する。相談援助職として支援に結び付けるための制度概要の理解、関連機関及び関連職種についての知識を定着させる。	
授業の進め方	問題演習と解説に加え、必要に応じて復習講義を行い、より高度な知識定着を図る	
達成目標	1. ソーシャルワーカーとして必要となる各種の制度について理解する。 2. ソーシャルワークに係る組織、団体及び専門職について理解する。 3. 各種相談支援分野との連携について理解する。 ※社会福祉士としてソーシャルワークに係る組織、団体、専門職の役割及び各種相談支援分野との連携について理解されている。	
教科書	オリジナル講義レジュメ 中央法規出版「過去問解説集」「ワークブック」	
特記		
授業計画	1	医学概論、心理学と心理的支援、 2 ソーシャルワークの基盤と専門職、理論と方法の理解 3 社会福祉の原理と政策、社会学と社会システム 4 地域福祉と包括的支援体制、社会保障 5 高齢者福祉、障害者福祉 6 児童家庭福祉、貧困に対する支援 7 社会福祉調査の基礎、保健医療サービス 8 福祉サービスの組織と経営の理解 9 権利擁護を支える法制度、刑事司法と福祉 10 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。	
備考		